

オー・エイ・エス株式会社 塩見 友規



みなさま、こんにちは。前回の JNSA Press の会員紹介記事を執筆された、株式会社情報数理研究所の伏見様からご紹介を頂いた塩見と申します。普段の業務では、オー・エイ・エス株式会社で主に業務アプリケーションの開発に携わっております。

この度、会員紹介記事の執筆をご紹介頂いたものの、何について書くか迷いましたが、せっかくですので、私が JNSA の活動に参加したきっかけと経緯についてご紹介したいと思います。

私は、2007 年の 5 月から約半年の期間、平成 15 年に文部科学省が公募した「科学技術振興調整費新興分野人材養成基盤的ソフトウェア」に採択された、工学院大学の「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラムに 4 期生として参加させて頂いておりました。もともと、JNSA の活動についてそれ程詳しい訳ではなかったのですが、「セキュアシステム設計技術者の育成」プログラムには、JNSA から多くの方が講師として招聘されていたこともあり、講師の方々とお話をさせて頂く中で、JNSA の活動についても様々な情報を頂くことが出来、そこで初めて JNSA の活動について興味を抱きました。

しかし、当時は私の所属している会社は JNSA の会員企業で無かったため、まずはサブスクリバ(個人会員)として JNSA に参加しました。ですが、企業として参加している訳では無かったので大した活動は出来なかったこともあり、その後、当時の上長の協力を得て、会社の方で JNSA の会員企業として参画してもらうように働きかけを行いました。その結果、2007 年の秋に無事稟議が通り、JNSA に会員企業の一員として正式に参加することが出来るようになりました。

JNSA に参加した当初は、業務に影響の出ない範囲であれば比較的自由に活動の許可を頂けたこともあり、多くの WG や勉強会に参加して情報交換をさせて頂いておりました。特に、若手を中心となって活動を行っていた U40 部会は発足して間もない時期であり、活動を盛り上げていこうとする勢いがありました。今では U40 部会も 40 名以上のメンバーを抱え、現在も定期的な勉強会の開催やラボネットの構築などの活動を活発に行っております。それも、発足当初からのメンバーの方々のご尽力があってこそだと思います。

私自身は業務でセキュリティ専門の作業をしている訳では無いため、JNSA の活動に参加することにより、セキュリティ関係で活動されている多くの方との知己を得ることが出来たことは自分にとって大きな財産となっています。

JNSA では、勉強会や WG 活動を随時開催しておりますので、JNSA Press をご覧のみなさまも興味を持たれた活動がありましたら、ぜひともご参加ください。ご参加されたみなさまとは、今後様々な機会でお会いすることがあると思いますので、その際はどうぞよろしくお願い致します。



JNSA 会員の皆様、はじめまして。富士通の佳山と申します。シスコシステムズ木村さんからご紹介いただき、簡単な自己紹介と取り組みについて書かせていただきます。

私はこれまで富士通株式会社でシステム構築のプロジェクトマネージメントを3年、セキュリティのアーキテクトを6年やって参りました。

現在は、その経験を活かし、システム開発現場におけるセキュリティ最適化・要件定義を行っております。大規模なシステム開発の現場において、セキュリティという非機能要件を詰めないまま設計を始めてしまい、「ログが繋がらず追跡できないシステム」や「一部のセキュリティ脅威にだけ過剰に投資したバランスの悪いシステム」、「運用を考えず、セキュリティ機能を入れただけのシステム」が出来上がってしまう事がしばしばあります。そこで、私のような者が開発プロジェクトに入り込んで、セキュリティリスクを最適化したセキュリティ要件定

義を実施しております。

また、時にはお客様側にたち、セキュリティの最適化に向けたセキュリティリスクの可視化⇒計画立案⇒調達計画を支援しております。セキュリティリスクと想定投資額（システム面）を可視化する事により、対策の優先順位を決めることができ、お客様の調達計画に投資額の低減という効果をもたらす事ができると考えております。

そういった活動を進める一方で、いくつかの壁にぶち当たっております。代表的な「壁」が以下の3つです。

- ① セキュリティ全体最適化の必要性がまだまだ浸透してなく、お客様との会話が成り立たない
- ② 一部の技術を深く知ることができても、オープン化が進んだ昨今では、お客様の業務に関連する全ての技術を鳥瞰図で捉えることが難しくなった
- ③ 社内やお客様だけを相手に仕事をしては、社外の方々と交流する機会がない

そこで、私は以下3点をJNSAにおける取り組みテーマとして活動を開始しました。

- ① 開発現場の目線から、鳥瞰図で行うセキュリティ全体の最適化の必要性を訴え、活用できるノウハウをツール化する（自分の経験を世の中に活かす）
- ② 社内からの収集だけでは追いつかないコンピュータウイルスやセキュリティ脅威、セキュリティ事件・事故の最新動向を得る（最新の動向を社内に活かす）
- ③ お互いの情報を共有し、一緒に考えられる人脈を形成する

これから皆様と汗をかきながら進めて行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。